

令和4年度 吹田市自殺対策推進懇談会  
議事要旨

開催日時	令和5年2月20日（月）午後2時00分開会～午後3時30分閉会
開催場所	総合福祉会館 3階 研修室（一部オンライン使用）
委員長	小久保委員
出席者	小久保委員、坂元委員（オンラインで出席）、濱野委員、岩脇委員、松川委員、佐本委員、瀧澤委員、中野委員 （以上8名）
欠席者	なし
議題	（1）自殺対策大綱の見直しについて （2）令和3年吹田市の自殺の状況 （3）令和4年度自殺対策推進庁内会議実務担当者会議について （4）第2次吹田市自殺対策計画策定について （5）その他
資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>○資料1 吹田市自殺対策計画施策体系図</li> <li>○資料2 吹田市自殺対策推進体制図</li> <li>○資料3 令和3年吹田市の自殺の状況</li> <li>○資料4 令和4年度吹田市自殺対策推進庁内会議実務担当者会議 まとめ</li> <li>○資料5 地域保健課における取組内容</li> <li>○資料6 第2次吹田市自殺対策計画策定について</li> <li>○参考資料1 吹田市自殺対策推進懇談会の傍聴に関する事務取扱要領</li> <li>○参考資料2 吹田市自殺対策推進懇談会設置要領及び委員名簿</li> <li>○参考資料3 自殺総合対策大綱の概要</li> <li>○参考資料4-1 吹田市自殺対策計画の進捗確認シートⅠ</li> <li>○参考資料4-2 吹田市自殺対策計画の進捗確認シートⅡ</li> <li>○リーフレット「こころのお天気はどうですか？」 「こころの健康相談」～保健所に相談してみませんか？～ 「ひとりで悩まないで～こころの悩みなどの相談窓口一覧～」 「こころの体温計」（吹田市ホームページより）</li> </ul>

議 事 の 経 過	
発 言 者	発 言 の 要 旨
1 開会 事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>○懇談会傍聴について</li> <li>○資料確認</li> <li>○開会あいさつ</li> <li>○委員紹介 今年度は委員の改選があり、本日の各委員におかれましては、令和4年7月から令和6年6月まで2年間の任期になる。</li> <li>○懇談会委員長、副委員長の決定</li> <li>○委員長あいさつ</li> <li>○資料1, 2に基づき、吹田市自殺対策計画と本懇談会の位置づけについて説明</li> </ul>
2 案件 (1) 自殺総合対策大綱の見直しについて 事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>○参考資料3に基づき説明</li> </ul>
(2) 令和3年吹田市の自殺状況 事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>○資料3に基づき説明</li> <li>○令和3年の自殺者数は計59人で前年より12人増加。令和4年速報値でも56人と高止まりの傾向</li> <li>【地域自殺実態プロファイルより】</li> <li>○過去5年における自殺者数合計は「男性40～59歳有職同居」が最多。</li> <li>○吹田市の特徴として「20歳未満」と「無職者・失業者」の死亡率が全国自治体の上位10～20%に入っている。</li> </ul>
(3) 令和4年度自殺対策推進庁内会議実務担当者会議について 事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>○資料4, 5に基づき説明</li> </ul>
(4) 第2次吹田市自殺対策計画策定について 事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>○資料6に基づき説明</li> </ul>
3 質問・意見交換 委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和3年度の取り組みとして大学、公立高校との意見交換会の実施について。社協では高校生への食糧支援を施設連絡会と共同で実施しているが、その協議の場で今後どのような支援が求められているかが議題に上がってい</li> </ul>

事務局	<p>る。今回保健所の実施する大学との意見交換会で出た意見を知りたい。</p> <p>また、ゲートキーパー研修の内容について、社協では生きづらさのある人からの相談が増えてきており、支援の必要性を感じている。社協職員に対し、基礎的な内容だけでなく、ステップアップした内容の研修を受けたいと思うが、予定はあるか。</p> <p>昨年度、府立高校と市内5大学に個別にヒアリングした。</p> <p>高校では家庭環境に問題のある子どもが多く、それが一因となり登校できない子もいるという話があった。精神疾患かどうかの判別も難しく、相談先が知りたいとの声もあり、保健所のこころの健康相談を案内した。</p> <p>大学からはコロナ禍によりオンラインから対面になった時に登校しづらくなった学生がいるとのこと。登校すれば相談にも乗れるが、登校しない学生へのアプローチに悩むとの声を聴いた。SOS が出せない方へのアプローチをどうしていくかが課題と共有。</p> <p>ゲートキーパー研修については、対象者に応じて内容を柔軟に変える必要がある。事前に打ち合わせを持ったうえで、各団体の要望に応じた内容を実施していきたい。</p>
委員	<p>吹田市の自殺者や自殺未遂者に若年者の割合が高いことへの分析は何かあるか。</p>
事務局	<p>吹田市に特化した理由の分析にはまだ至っていないが、若年層の自殺の増加が全国的に言われている。自殺は、生きることの阻害要因が、生きることの促進要因を上回った時に起こると言われているが、若年層の自殺の場合、生きる促進要因が少なくなっていることも背景にあるのではないかとされている。教育担当部署と連携して検討していきたい。</p>
委員	<p>資料3の自殺された方のそれまでの相談履歴についてはわかるのか。</p> <p>資料4について、相談を受けるには技能が必要とされると思われるが、技能のある職員の確保は十分なのか、また、資質や技能の有無についてはどのような基準で評価しているか。</p>
事務局	<p>警察庁がまとめた資料を厚労省がまとめて統計をだしているもののため、相談履歴については分からない。</p> <p>庁内窓口に専門職等が配置されているわけではない。自殺に至る理由には多岐にわたる事情があることから、庁内で市民対応するどの部署の職員であっても自殺に関するアンテナを張ることが必要であるし、適切な部署に案内することが必要であると考えている。全庁的な窓口業務を担当する部署への啓発や人材育成は必要であり、次の計画に向けて関係部署と連携、検討していきたいと考えている。</p>

委員	<p>こころの体温計について、いろんな方が気軽に利用できるのは良い。当該事業から相談につながった実績はあるか。</p>
事務局	<p>数件相談につながった事例もある。保健所の相談時に当該事業を実施したか確認していないため、相談経路としての実績を統計的にとることはできていない。当該事業を利用すると、必要時保健所等の相談先の情報提供がされている。</p>
委員	<p>実務担当者会議の中には心療内科医師は参画していないのか。精神疾患を持つ方が相談に行くのは心療内科を受診することが多いと思われるが、その情報を有効に保健所が利用しているのか。</p>
事務局	<p>心療内科の医師は実務担当者会議には参加していない。本日の懇談会には参加いただいております、実務担当者会議の内容も共有している。</p>
委員	<p>別件の相談で来庁した市民に対し、病気の可能性を感じた時やその人が死にたいと言った時、精神科への受診勧奨についてどう話をもっていったらいいか難しいと思うが、その時の困りごとだけでなく気持ちを聞いてもらうことで受診につなぐ糸口になると思う。</p> <p>自殺は予測できず突然おこることもあるし、軽い口調で死にたいと言ったあとで既遂する人もいる。少しでもそういった発言が出た際には丁寧に聞いてもらうとよいと思う。</p>
委員	<p>大阪府こころの健康総合センターでは専門相談として自死遺族相談を実施している。市役所の各室課でそれぞれに取り組みされている施策が全て自殺対策につながるものであり、このような実務担当者会議には意義があると思う。</p>
委員	<p>コロナ禍で自死遺族相談が増えたということはあるのか。</p>
委員	<p>自死遺族相談が、数値的に増加傾向かどうかは不明だが、府全体でも自殺者数の高止まりが続いているということは遺族も増えているということでもある。</p>
委員	<p>民生委員として高齢者の見守りや地域生活への支援をしている。必要時、社協などに相談したり、関係部署につないだりしているが、若年層への民生委員の活動内容の認知度は低く、相談されることが少ない。</p>
委員	<p>コロナの貸し付けの償還払いが1月から始まっているがどのような状況なのか。</p> <p>学生の支援についての内容や、その中で感じる学生の困窮度や孤立度はどのような状況なのか。</p>

委員	<p>コロナによって減収、雇い止め者に対して特例貸付が令和2年から続いており、今年の1月から償還がはじまったところ。相当数の貸し付けを行ったが、償還延長の相談は予想していたよりもない。待っているだけでは生活再建に至らないため、来年度から人員を配置して貸し付けを行った方に対し、アウトリーチした方法で支援を開始することを検討している。</p> <p>学生の支援事業については、令和2年度からバイトがなくなった等で生活が苦しくなった学生を対象に食料支援を行ってきた。年3回、1回定員100名くらいで実施してきた。今年度くらいからは申し込みは定員割れしていて、50名程度の申し込みになっている。公立高校向けにも案内し、10人程度の申し込みがあった。家庭環境によるしんどさを聞いており、次年度も実施する予定。</p>
委員	<p>地域の中のネットワークの強化という点で、民生委員の存在の周知についての提案だが、吹田はスポーツ教室が盛んであり、地域でしている活動なので、家庭や学校で居づらい人も行きやすい場所。スポーツ事業等を所管する文化スポーツ推進室も参画機関に加えて、そのような場を活用することで周知が推進できるのではないかと。吹田市の強みのところを活用したらいい。</p>
事務局	<p>実務担当者会議には全室課が参画してはなかったので、会議の構成について次年度の計画策定時に検討したい。</p>
委員	<p>民生委員は出産後の家庭を訪問し、子育てに関する情報のリーフレット等を渡しているが、母親のメンタルヘルスのことで相談できる先のリーフレットも封入できるとよいと思う。母子保健課や家庭児童相談室と相談してほしい。</p>
事務局	<p>母子保健課とも連携し、産婦に向けた啓発について協議したい</p>
委員	<p>社協では公立の小中学校向けに福祉教育を開催している。社協、行政は相談のハードルが高いと思われるが、保健所も学校への直接的なアプローチができるとよいのではないかと。</p>
事務局	<p>生徒向けの啓発研修は実施できていないが、生徒に対応する立場の教員向けに外部講師を招きゲートキーパー研修を実施している。保健所としては教育委員会と連携し、生徒が保健所等に相談しやすい環境づくりに努めていきたい。</p> <p>また、思春期向けのお天気のリーフレットを小中学校に配布した。大人向けだけでなく若年者に向けたリーフレットの作成により、広く啓発している。</p>
委員	<p>生活保護が望ましいと思われる人が、イメージ等で申請しない人がいる。コロナ禍で生活保護申請数は増えて当然なのに減少傾向にあるが、社協の貸</p>

<p>瀧澤委員</p>	<p>し付けがその穴埋めをしている実情があるのだと思う。</p> <p>生活保護への偏見をなくすため、他市では市をあげてポスター掲示やチラシの全戸配布等に取り組んでいる。(新潟県、枚方市、野洲市、札幌市)吹田市でも同様のことを検討してもらいたい。</p> <p>学校や企業で、生徒や職員の健康診断の一環でメンタルヘルスを評価し、それを校医や産業医と連携するような取り組みはしていないのか。</p>
<p>事務局</p>	<p>学校では IT を利用した生徒のこころの健康のチェックするシステムを開始したと聞いている。企業については、50 名以上の企業ではストレスチェックが義務付けられた。</p>
<p>委員</p>	<p>平成 30 年 1 月に SOS の出し方教育の推進について通知が出されており、地域の関係者も一緒になって実施するよう言われている。大阪府こころの健康総合センターでは「こころの健康について考えよう！」という冊子を作成し、希望する学校で授業を実施している。学校と地域の関係機関との連携ができればと思っている。</p>
<p>事務局</p>	<p>本日いただいた御意見について、3 月に予定しております庁内会議で報告するとともに、関係機関と連携しながら計画推進に向けて取り組んで参ります。</p> <p>令和 5 年度は第 1 次計画の評価及び第 2 次計画の検討・策定の予定としております。懇談会の開催も複数回ございますが、今後ともどうぞよろしくお願いたします。</p> <p>それでは本日はこれで終了したいと思います。お忙しい中御出席いただきありがとうございました。</p>
<p>(閉会)</p>	